

高等学校

平成 16 年 度

# 教育研究員研究報告書

外	国	語
---	---	---

東京都教職員研修センター

# 目 次

<b>共通研究主題 「関心・意欲・態度を高める個に応じた指導の工夫」</b>	
1 共通研究主題設定の理由	1
2 研究のねらい	1
3 研究の方法	1
<b>Aグループ研究主題 「生徒の主体的なリーディング活動を促す指導の工夫」</b>	
1 主題設定の理由	2
2 研究の仮説	2
3 研究の方法	2
4 実践事例	4
5 生徒対象の意識調査	10
6 研究の成果と課題	11
<b>Bグループ研究主題 「自己表現能力の育成を図る指導の工夫」</b>	
1 主題設定の理由	13
2 研究の仮説	13
3 研究の方法	13
4 実践事例	14
5 生徒対象の意識調査	22
6 研究の成果と課題	24

# Ⅰ 共通研究主題 関心・意欲・態度を高める個に応じた指導の工夫

## 1 共通研究主題設定の理由

高等学校学習指導要領では第1章総則で「自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない」としている。また、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(高等学校)」(国立教育政策研究所)の英語 とオーラルコミュニケーション の評価の観点においては「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」が重要な柱となっている。さらに現在、個に応じた指導の必要性が一層求められている。

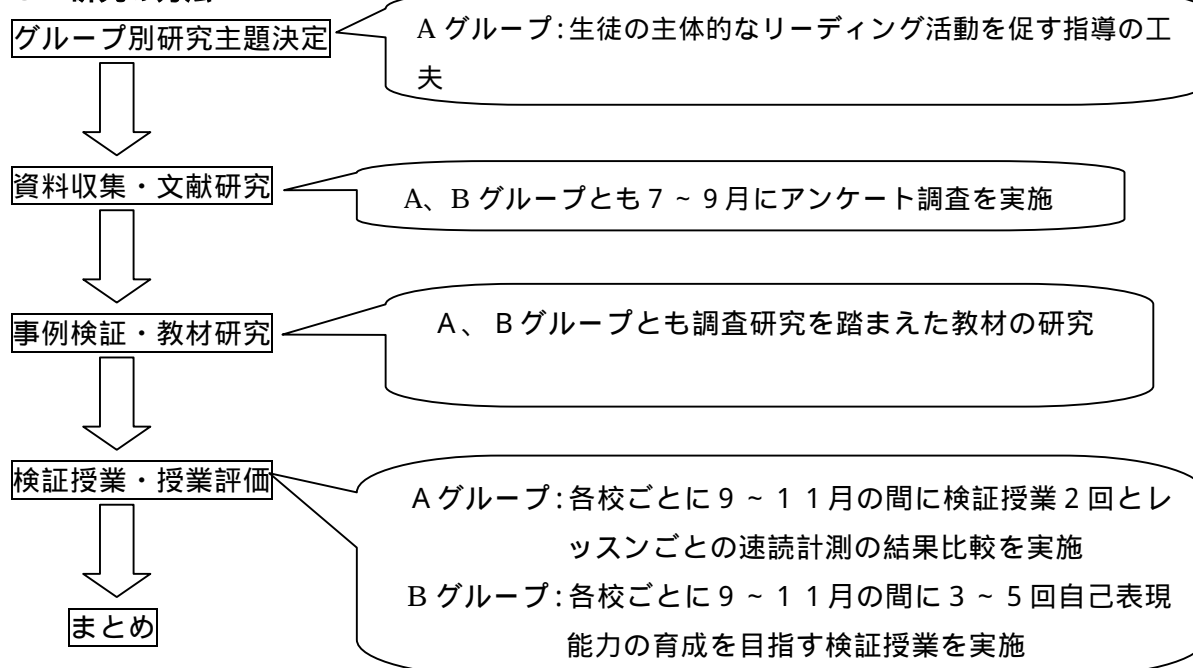
以上の理由から「関心・意欲・態度を高める個に応じた指導と評価」を共通研究主題として設定した。

## 2 研究のねらい

今年度 12 名の研究員を A、B グループに分けて研究を進めた。A グループでは、教科書を使っての速読指導に焦点をあてた。速読指導の過程に工夫を加え、指導を積み重ねることにより、生徒に主体的に英文を読む姿勢が養われると考え、実践事例を提案することを目指した。

B グループでは、自己表現能力の育成に焦点をあてた。興味・関心を促す教材を使って、授業の中でお互いにメッセージを発信し、理解し合う学習過程を作れば、生徒は積極的に英語で自己表現するようになるのではないかと考え、実践事例を提案することを目指した。

## 3 研究の方法



## II Aグループ研究主題 生徒の主体的なリーディング活動を促す指導の工夫

### 1 主題設定の理由

英文を読むという活動は、目的に応じて変えていくべきである。授業という限られた時間に指導しなければならないということから、扱える分量の指導、つまり精読を中心とした授業展開が多いのではないだろうか。しかし、生徒に読解力を養うには、精読だけではなく速読も必要である。

また、情報が氾濫した実社会では、多くの情報から、必要な情報を取捨選択していくことが不可欠である。インターネットでサイトを検索するときも、多様な情報の中から更に目的に応じて必要な情報だけを選び読み取っている。日本語でも英語でも使用言語にかかわらず、ねらいに応じて読み方を変えていくことは重要である。

Aグループでは、各学校間で生徒の習熟の程度の差があることを踏まえつつ、独自作成教材ではなく、教科書を用いての速読指導に焦点を当ててみた。教科書はバランス良く幅広いジャンルからの題材を扱っているという反面、速読させるには難しいのではないかという見方もあるが、速読指導の過程に工夫を加えることによって、限られた授業時間の中でも速読指導は可能であり、速読指導を積み重ねることによって、意欲的に英文を読んでいく姿勢が養われると考え主題を設定した。

### 2 研究の仮説

工夫を加えた段階的な速読の指導を通して、意欲的に読む態度が養われる。

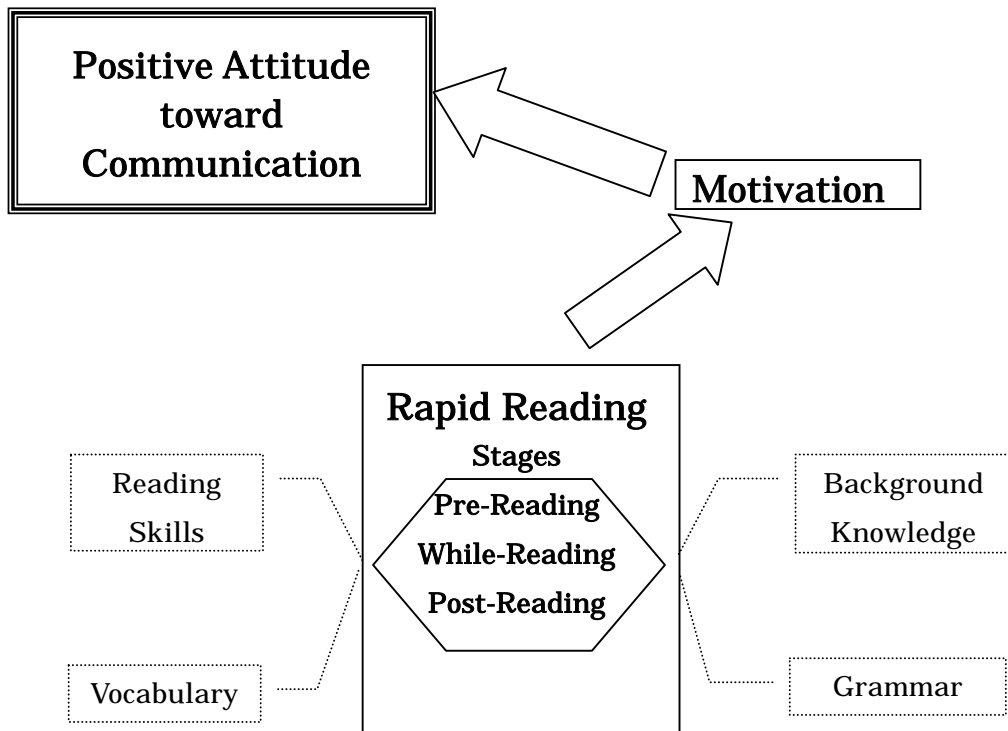
### 3 研究の方法

- (1) 調査研究：7月上旬に速読の意識調査、英文の内容理解、教科書に関連したことを発展的に調べる態度についてアンケート調査を実施した。
- (2) 教材作成：事前調査を基に、教科書の内容を使い、速読指導の流れを、Pre-Reading, While-Reading, Post-Reading の3つの Stage に分けて、教材を作成した。
- (3) 検証授業：速読指導を実施した。
  - ア 各校で教科書各課（または各パート）ごとに速読計測を行い結果を比較した。
  - イ 各校で9月（速読指導を行う前）と11月に同じ教材で速読計測を行い結果を比較した。

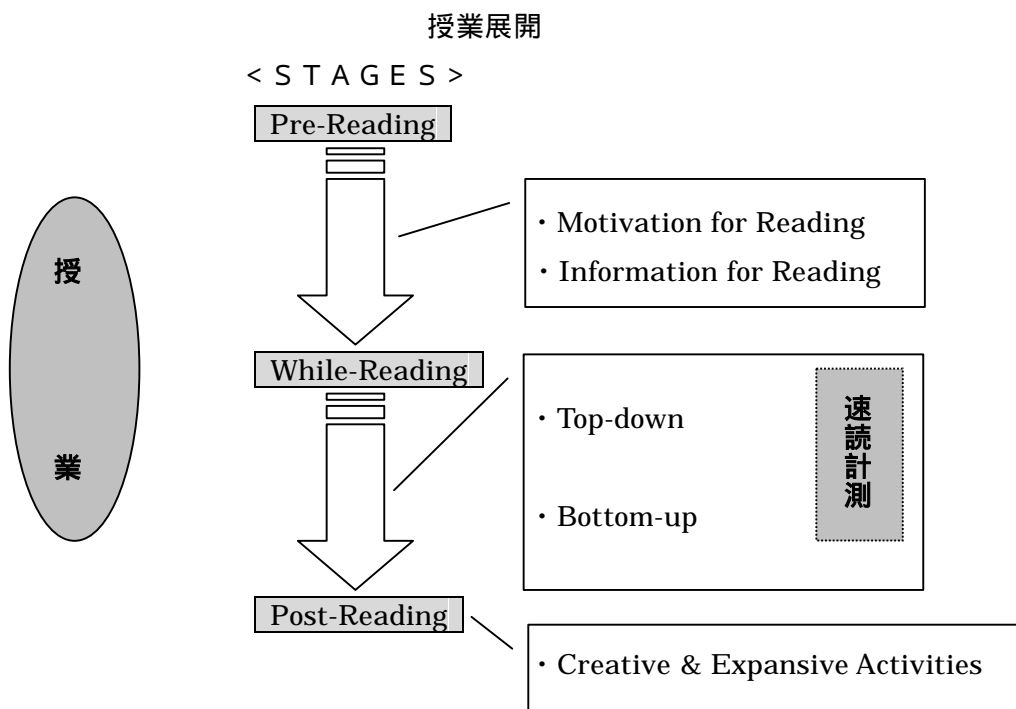
\*教材の選定と実施手順

内容、語い・語数、難易度が生徒の実態に沿った教材を他の教科書から選んだ。ただし、9月に実施した時点で問題・解答ともに回収し、答え合わせや解説は行わず、11月に再度実施した。
- (4) 事後調査：11月に速読の意識調査、英文の内容理解、教科書に関連したことを発展的に調べる態度についてアンケート調査を実施した。

Aグループの考える速読指導のイメージ



本研究を進めるにあたり、各校の特色・実態によって2グループ（A校、B校、C校とD校、E校、F校）に分けた。また、仮説を具体的に検証して行くために Reading Activities を3つの Stages（段階）に分けた。下記のフローチャートにあるように、Pre-Reading, While-Reading, Post-Reading である。そして、この活動を展開していく中で、各々の Stage に各校で工夫を加えることにした。



## 4 実践事例

### (1) A校、B校、C校における実践

大学進学希望の生徒が比較的多く、英文を読むことに対しあまり抵抗がない。

ア 科目 英語 ・

イ 使用教科書

A校 MILESTONE English Reading (啓林館) “The Man on the Train” …自叙伝

B校 SPECTRUM English Reading (桐原書店) “What’s Your Emotional Intelligence?” …論説

C校 UNICORN ENGLISH READING (文英堂) “The Tragedy of Pompeii” …歴史

### Pre-Reading

#### ア 題材について生徒に興味をもたせるための活動

visual 映画・絵・写真などを見せる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のさし絵・写真からストーリーを予想させた。(A校)</li> <li>・教科書の写真、キーワードから内容を連想させた。(B校)</li> <li>・地図・写真を利用して、場所や古代ローマについて理解を深めさせた。(C校)</li> </ul>
experiential 自分の経験・体験と関連付けさせる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の代表作「ルーツ」について紹介した。(A校)</li> <li>・生徒のIQに関する知識と、EQの違いを比べさせた。(B校)</li> <li>・世界史の授業で古代ローマについての知識を確認させた。(C校)</li> </ul>
brain storming タイトルから思いつくことをブレインストーミングさせる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1シーンの会話から場面と状況を想像させた。(A校)</li> <li>・企業の採用試験や昇進で、EQの実社会への影響を想像させた。(B校)</li> <li>・ポンペイについての知識を生徒に質問し、どのような悲劇かを推測させた。(C校)</li> </ul>

#### イ 本文の内容を推測させるための活動

visual 映画・絵・写真などから予想させる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書挿入写真・図表から状況をイメージさせた。(A校)</li> <li>・挿入絵がある場合そのパートのヒントとして説明し、内容を想像させた。(B校)</li> <li>・写真から古代ローマの時代を想像させた。(C校)</li> </ul>
genre ジャンル・読み方から予想させる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自叙伝の読み方を説明した。時系列的な展開(縦軸としての読み方)と筆者の心情表(横軸としての読み方)客観的事実と主観的記述について注意を促した。(A校)</li> <li>・論旨の展開を説明した。EQの格差が起こす実例、その定義と働きの認識、実験による証明、結果の考察の順で読み進めることをあらかじめ伝えた。(B校)</li> <li>・時間を表す語句を指摘させ、歴史の時の流れを把握させた。(C校)</li> </ul>
contents 内容・キーワード・登場人物・ブックレビューなどから予想させる。

ウ 語い推測・認識のための活動

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各パートの内容を把握させるために必要な語句を最小限指摘した。(A校、B校)</li> <li>・パラグラフごとに進出単語の発音と意味を確認させた。(A校、B校、C校)</li> <li>・教科書で脚注にあり、ストーリー展開上重要な語句について説明。(A校)</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**While-Reading**

ア Top-down	
A 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定時間内に各パートでフレーズリーディングさせた。</li> <li>・各パートでねらいを絞った3段階に分けた読み方に取り組みせ、時間を計測した。</li> </ul> <p>Practice A・B・・・必要な情報だけをねらって読む読み方(scanning)</p> <p>* Aはキーワードの穴埋め問題(5問)</p> <p>Bは英文にマークさせて必要な情報を探させる問題(5問)</p> <p>Practice C・・・概要をつかむ読み方(skimming) T or F問題(5問)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定時間内に各パートでフレーズリーディングさせ、時間計測をした。</li> <li>・内容理解を促す3パターンの設問をした。</li> </ul> <p>Practice A・・・scanningで穴埋め問題(5問)</p> <p>Practice B・・・scanningで各ページの要点を答えさせる問題</p> <p>* 質問の解答となる文章の前後関係を確認する。</p> <p>Practice C・・・概要をつかむ読み方(skimming) T or F問題(5問)</p>
C 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各パートで描写の仕方を捉えさせる。(客観式の問題5問)</li> <li>・各段落で時間軸を表す部分を指摘させ、大まかな流れを示す。登場人物の様子を示す部分を把握させる。</li> </ul>
イ Bottom-up	
A 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各パートの内容面について英問英答を時系列ごとに出題した。解答文ができるだけそのパートの要旨になるように工夫した。</li> <li>・英文和文対応のフレーズリーディング訳のプリントを配布した。</li> <li>・ストーリー展開上必要最小限の文法事項を説明した。(省略、倒置など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各パートで問いに解答し終えてから、フレーズで区切った訳を音読で確認した。</li> <li>・内容理解に最低限必要な文法事項を説明した</li> </ul>
C 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を各段落に沿って理解させる。語句の言いかえを指摘させる。</li> </ul>

**Post-Reading**

ア 言語材料の確認

重要構文の自習教材を配布した。(A校)
英文和文対応の和訳(プリント配布)を実施した。(B校)
lesson内のstructureを使い、重要な言語材料の説明を行った。(B校、C校)

イ 発展的な表現活動

感想を書かせた。(例)「筆者の主張に対する考え」「自由意見」(A校、C校)
切口を変えた読み方を例示した。(例)時代背景・情景・日米学校制度の違い・人種問題・異文化・宗教観・価値観の違い(A校)
実際のEQテストを行い、選択肢から設問の意図を理解させた。(B校)

ウ 関連教材の紹介・レッスンに関連した本・サイト・ホームページの紹介

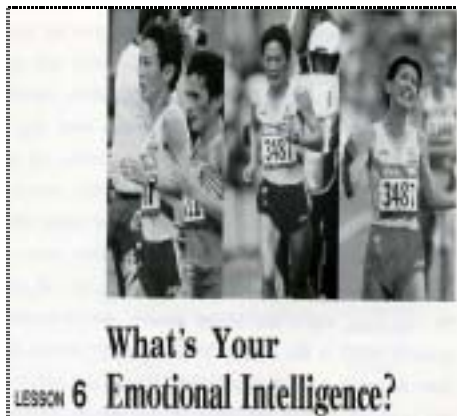
筆者の他作品について紹介した。(A校)
テーマに関連した情報を紹介した。(例)就職用EQテストの対策セミナー (B校)
テーマに関連した本を紹介した。(例)“What about you?” (A校) 『EQ～心の知能指数』(B校) ポンペイに関する書籍(C校)

**考察**

- ア 速読技術習得のための基本的な指導方法を統一し、教材ごとに提示する資料と読み方に工夫を加えたことにより、各テーマについての生徒の内容理解を促進することができた。
- イ 段階的に工夫した速読の訓練を重ね、より速く、より正確に読む力が着実に向上した。
- ウ 速読記録を取らせることにより、生徒自身の目標が明確化し、意欲的に読んでいこうとする態度が養われた。
- エ 使用した教材に関連した情報や資料を提示し、そのテーマに関するさらなる探究を促すきっかけとした。その結果、主体的に学ぼうとする態度が見られた。

速読練習用教材(C校)のイメージ

写真から本文の内容を想像させる教材(B校)



Lesson 6 The tragedy of Pompeii SECTION 3

PRACTICE A

In those first few hours, only those who thought quickly managed to escape. Vesonius Primus, the wool merchant, called his family together and gathered all the money and jewelry he could carry. Lighting a torch, he led his little band out into the nightmare of the street. In the confusion they overlooked their dog. The chained dog barked wildly and struggled with his chain to get free, but nobody came to save him. The ashes that settled over his dead body made a mold of it.

Hundreds of Pompeians fled in those first few dark hours. Stumbling in the darkness, they made their way to the sea, boarded boats, and got away, living to tell the tragedy of their city. Others preferred to remain within the city, huddling inside the temples, or in the public baths, or in the basements of their homes. They still hoped that the nightmare would end — that the quiet peace of a few hours ago would return.

It was evening now. And new woe was in store for Pompeii. The earth trembled and shook! Roofs began crashing in ruin, burying hundreds who had hoped to survive the eruption. In the Forum, tall columns toppled as they had in A.D. 63. Three feet of lapilli now covered the ground. Ash floated in the air. Gusts of poison gas came drifting from crater, though people could still breathe. Roofs were collapsing everywhere. The cries of the dying filled the air, Rushing mobs, blinded by the darkness and the smoke, ran madly up one street and down the next, trampling the fallen in a crazy, fruitless dash toward safety. Dozens of people rushed into dead-end streets and found themselves caught by crashing buildings. They waited there, too frightened to run farther, expecting the end.

( 296 WORDS)

終了時間： 分 秒

Questions:

1. What did Vesonius, the wool merchant gather when he escaped?  
あ jewelry い food う family
2. In the confusion, what did his family do?  
あ They had nightmares. い They looked for a torch. う They overlooked a dog.
3. Hundreds of people in Pompeii escaped in order to ( ).  
あ tell them know where they were い tell the eruption う tell the tragedy of the city
4. Roofs crashed and many people buried because of ( ).  
あ the earthquake い the fire
5. It was ( ) that mobs rushed up and down the street madly.  
あ in the morning い in the afternoon う in the evening

正解 / 5

3年 組 番 氏名



(2) D校、E校、F校における実践

この3校では英文を読むことへの抵抗感をもつ生徒が多い。従って、英文読解に入る前に生徒の英語への苦手意識を少なくさせる工夫が必要である。また、生徒が教科書の単元を学習し終わった後も、教科書で扱った内容に対して主体的に考えられるような指導・援助の工夫をした。

ア 科目 リーディング

イ 使用教科書

D校 New World I (三友社)

E校 Surfing English I (文英堂)

F校 English Now (開隆堂)

**Pre-Reading**

ア 題材について生徒に興味をもたせるための活動
<ul style="list-style-type: none"><li>・オードリー・ヘップバーンの伝記、アンネ・フランクの小説などの題材の場合、その出演映画の一場面や絵など見せ、映画の題名・俳優名などを聞き、俳優の出身地、何をした人物か、いつの時代の人物かなどを考え、自由に意見を発表させる活動を行った。(E校)</li><li>・色彩を題材に扱う課では、色紙を袋から出し、英単語や、その物に関しての生徒の意見・考えを引き出す活動を行った。(E校)</li><li>・遺伝子組み換え食品の題材では、実在のホームページや商品の写真を提示し、現在の状況について理解させ、題材を身近に感じさせる活動を行った。(F校)</li><li>・携帯電話に関する課では、携帯電話の長所と短所を考えさせ、題材について興味をもたせるよう工夫した。(F校)</li></ul>
イ 本文内容を推測するための活動
<ul style="list-style-type: none"><li>・教科書のさし絵・写真を拡大して提示し、本文の内容を予測させた。(さし絵・写真を時系列に並べさせる。既習の英語を使い説明させる。)(D校、E校、F校)</li><li>・映画「Back to the Future」の一場面を直前の一場面や音声を消して内容を見せ、その続きがどんな場面なのかを想像させる活動を行った。(D校)</li></ul>
ウ 語い推測・認識のための活動
<ul style="list-style-type: none"><li>・本文中の単語・熟語の意味をそれに対応した絵と組み合わせる活動を行った。(単語や語句のカードをグループ数用意し、台紙に並べ貼らせる。答えを確認後、理解度をチェックするための小テストを行った。)(D校、E校、F校)</li><li>・単語を品詞に分類させる活動を行った。(D校)</li><li>・新出単語を含む英文を与え、グループで意味を考えさせ、発表させたり、日本語と組み合わせたりさせた。(カードを人数分用意し、対応する英文と和文を持つ生徒を見付けさせた。)(F校)</li></ul>

語いを推測させる  
活動(D校)



本文を推測させ  
る活動(D校)

**While-reading**

ア Top down (D校、E校、F校共通)

- ・パートごとや、一つの課を全体を通してざっと読んだ後、内容理解の設問 (scanning、skimming、T or F や選択肢) で理解度を確認した。ペアやグループで答え合わせをした。
- ・一つの課の本文全体をどのくらいの早さで読めるのか秒数を測り、生徒にWPM (= 語数を解答にかかった時間で割り、正解率を掛けた数値) の算出方法を教え、自己評価をかねて自分のWPMを確認させた。
- ・本文を読む前にグループで内容を予測・想像させてから本文全体を読み、それまでに予想していた内容と合っていたかどうか確認・発表させた。
- ・英文の中の I, he, she, などが誰を指すのか登場人物を分類させたり、動詞にすべてアンダーラインを引かせたりして本文全体を理解させた。
- ・本文を段落ごとに切り取った紙を配り、ペアやグループで意味の通るように並べ替え、お互いに発表させた。

イ Bottom-up

- ・遺伝子組み換え食品の題材では、日本文と英文が書いてあるカードを意味が通るように組み合わせ、グループで糊を使い紙に貼らせ発表させた。(F校)
- ・英文の訳を選択肢の中から選ばせ英文の意味を理解させた。(D校、E校、F校)
- ・日本語を与え、英単語や英文を推測させた。(D校、E校、F校)
- ・動詞に丸印をつけ、生徒が英文の構造を理解しやすくした。(F校)

**STEP 4 本文の意味をまどまどで捉えよう<内容>**

Color can affect our feelings and activities. Once an experiment was done in Canada. The teachers of a high school painted the walls of their school rooms yellow and blue. They were originally orange, white, and brown.

Believe it or not, some students had higher test scores after the change in colors. Also, fewer students were absent from school. The teachers found the students friendlier to each other.

Another experiment was done by an American scientist. He showed young people various colors to find out what would happen to them.

When they looked at warm colors such as red, orange, or yellow, their blood pressure became higher, and their breathing faster. On the other hand, blue, one of the cool colors, slowed down the activities of the body.

Color has an important effect on us. Some scientists advise us to use color effects in our daily life.

Many dentists follow their advice and paint their offices blue. They expect their patients to be calm and relaxed.

Do you know why the color orange is often used at fast-food restaurants? Because that color makes people hungry and eager to buy food and eat it quickly. (144)

下の質問に答えよう。

○カチヤのハイスクールで色を変えた結果変わったところは？

テストの点が上がり、①(出席率)、②(欠席率)、③(遅刻率)が少なくなった。そして生徒たちがお互いに④(親しみやすい)に、⑤(競争)するように、⑥(仲良く)、⑦(友達づきあい)するようになった。

○アメリカ人の学者が行った実験はどのようなもの？

暖かい色を見たとき、①(血圧)が高くなり、②(呼吸)が速くなる。一方、冷たい色を見たとき、③(活動)が鈍る。

○Warm color を見るとどのような結果が表れますか？

血圧が上がり、①(食欲)、②(呼吸)、③(考えの速度)が速くなる。

○学者たちはどこで色の効果を試すことを進めていますか？

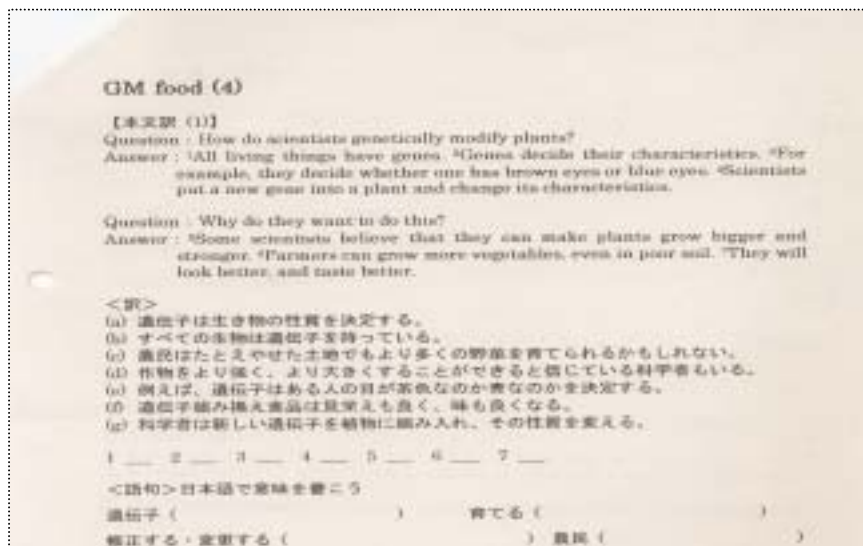
④(歯医者)、⑤(病院)、⑥(学校)。

1-12 姓名 ( ) 氏名 \_\_\_\_\_

17  
4  
54.8

WPM測定のための教材  
(E校)

本文の訳を選択肢より  
選ぶ教材(F校)



### Post-Reading

ア	文法事項の確認
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の問題を解かせた。</li> <li>補助問題集の問題を解かせた</li> <li>英作文のテキストを使い、文法の定着をはかった。</li> </ul>
イ	発展的な表現活動
	<ul style="list-style-type: none"> <li>レッスンで学んだ文法事項を用いて自己表現を行わせた。</li> <li>(例: 過去形を使って先週末の自分の行動を日本語で書かせ、仮定法を使い、「もし が・・・だとしたら何をするか」を英作文させた。)</li> </ul>
ウ	関連教材の紹介
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の単元に関連した本、サイト、ホームページを紹介した。</li> <li>上記のものに対する感想文を書かせた。</li> </ul>

### 考察

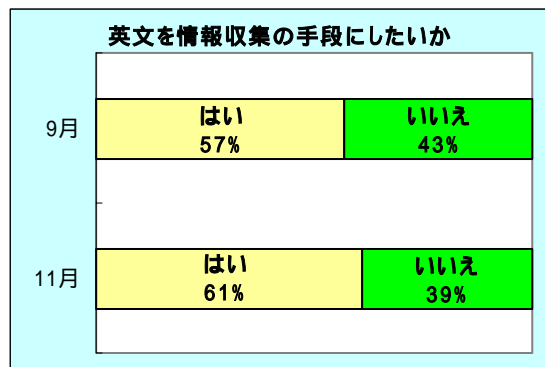
- ア 生徒は事前に Pre-Reading での理解があるため、抵抗感をもたずに英文読解に取り組めた。Pre-Reading 活動によって興味・関心が高められ、英文に対する抵抗感が減少した。
- イ グループやペアでのリーディング活動を取り入れたことで、授業に活気が生まれた。生徒が英語に触れる量が増え、英語を不得意と感じている生徒も、活動に意欲的に取り組むことができた。また、英語での解答は得点が倍になるなどのルールを決め、グループで競うようなゲーム的な要素も生徒の意欲の向上につながった。
- ウ WPMで自己評価することにより、生徒の意欲の向上につながった。
- エ 日本語訳は生徒が意欲的に取り組める活動形態で行った。全文を細かく訳し、説明を加えることに重点を置かなかった。生徒主体で訳を選ばせる、英語と日本語を組み合わせる、貼る、などの活動を工夫して本文の理解を深めた。
- オ Post-Reading 活動では、本文に関連した自己表現活動を通じて英語を使おうとする積極的な態度が身に付くよう指導を行った。この段階では教科書の本文の題材を自分に近いものと認識させ、教科書の読解をさらに深めることができた。

## 5 生徒対象の意識調査

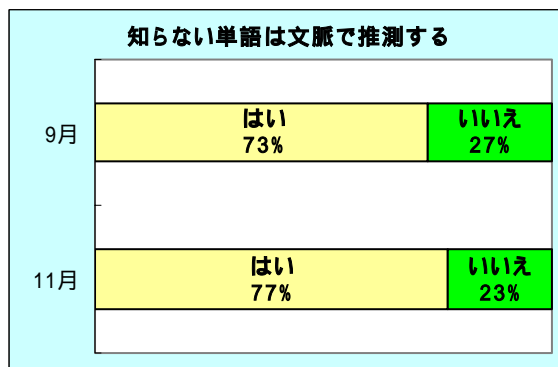
### (1) 調査結果

調査は6校(321人)の生徒を対象に、7月の授業実践の開始前と11月の検証授業終了後の2回行った。質問内容は速読の意識調査、英文の内容理解、教科書に関連したことを発展的に調べる態度を中心に扱った。以下はその主な結果である。

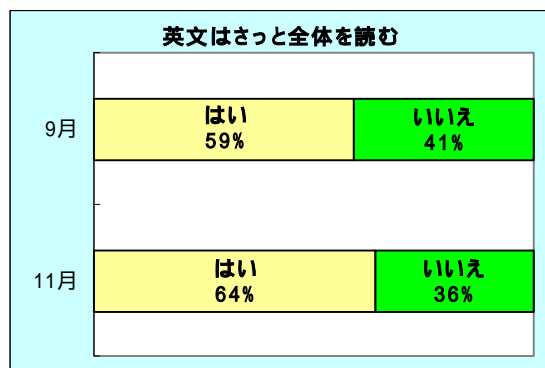
ア



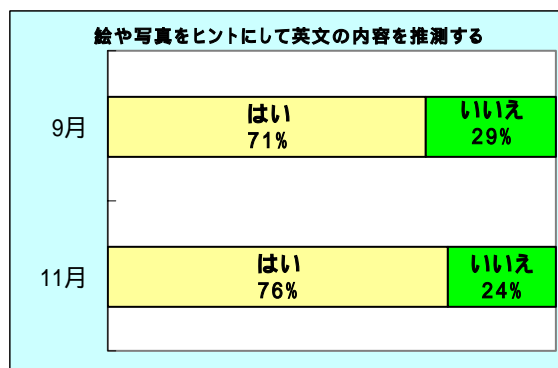
イ



ウ



エ



### (2) 考察

ア 「英文を情報収集の手段にしたいか」の項目は、いずれも11月の調査で増加した。このことから自ら進んで調べたいという意欲や関心が高まったといえる。

イ 「知らない単語は文脈で推測する」の項目から、ある程度の分量の英文を読むことにより未知の語の意味を文脈から推測し、概要を把握できるようになったことが分かる。

ウ 「英文をさっと全体を読む」の項目では、特にD校、E校、F校のグループにおいて10%向上した。英語を苦手とする生徒が多い中、英文の概要を把握しようという意欲が検証授業を通して定着したと考えられる。

エ 「絵や写真をヒントにして英文の内容を推測する」の項目から、英文の内容を予測することが定着したと考えられる。Pre-Readingでの導入が内容理解に大きく役立った。

## 6 研究の成果と課題

### (1) 成果

ア 英文を読む速度が向上した。

教科書の各課、パートごとに速読に段階的に取り組ませて指導することにより、読むリズムや読むための技術を身に付けることができた。

イ 英文に関する質問への正答率が向上した。

何を聞かれているかを把握し、その答えを見つけるためのスキルを身につけたことで正答率が上昇した。

ウ 英文読解に対する苦手意識が緩和された。

読解のスキルを学び、実践し、分からない単語があってもその意味を類推することに慣れていった。その結果、「読める」という体験を積み重ね、苦手意識が薄らいだ。

エ 英文を理解しようとする意欲に向上が見られた。

WPMの数値を上げようと、速読にゲーム感覚で取り組むことが一つの強い動機付けとなった。また、グループワークを取り入れることで、自主的な活動を中心とした授業が可能となり、生徒の主体的な態度と意欲が見られた。

オ 主体的に学習する態度が養われた。

教材の中で学んだ単語や題材に興味をもち、それを基に、さらなる情報を自ら集めようとする積極的な態度が見られるようになった。

9月と11月のWPMの推移

\* 右の表は、各校の生徒の習熟度に応じて選んだ同一問題によるWPMの値の推移である。いずれの学校でも数値が上昇したことが分かる。これ以外の教科書を使用したWPM計測でも、最大で約2倍に上昇した。

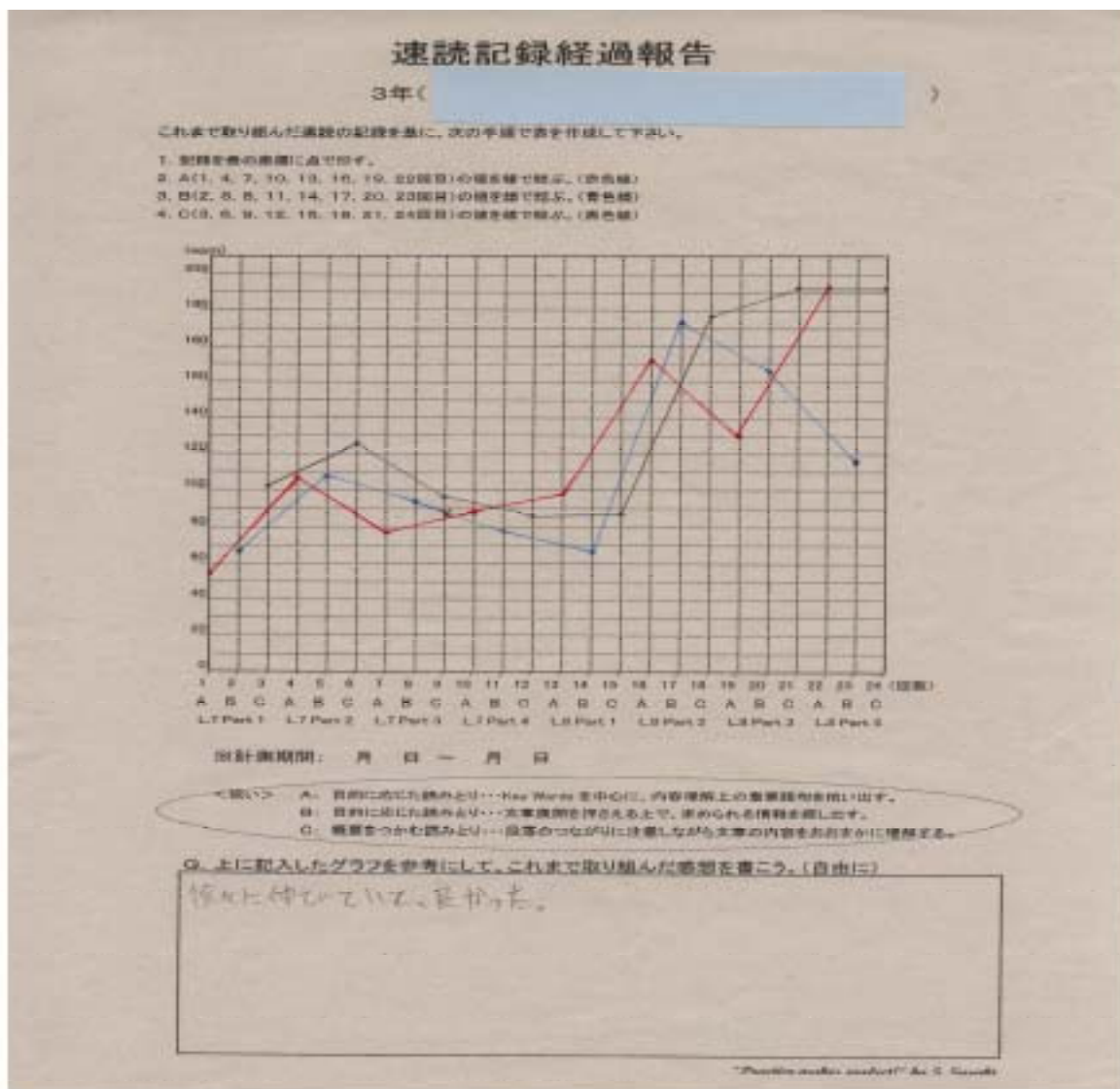
	A校	B校	C校	D校	E校	F校
9月	53.8	30.8	56.0	26.4	27.6	49.5
11月	82.1	46.2	61.0	52.0	59.2	70.8
上昇値	28.3	15.4	5.0	25.6	31.6	21.3

### (2) 課題

ア 生徒の習熟の程度に合うよう、読解に費やす時間と設問の種類を考慮する必要がある。

イ 今回の研究では、評価について深く扱わなかった。今後「読むこと」における評価についてさらに研究を進めていきたい。

ウ レディネス、スキルとも個人差があり、一単位時間内でどのように個に応じた指導を行うかはこれからも検討すべき課題である。英文を読むことができても英語に自信をもてない生徒が依然多いという現状がある。



## 7 参考文献

- Marcia J. Coman , Kathy L. Heavers What You Need to Know About Reading. Comprehension and Speed, Skimming and Scanning. Reading for Pleasure. Passport Books. 1991.
- Lois A. Bader. Reading Diagnosis and Remediation in Classroom and Clinic: A Guide to Becoming an Effective Diagnostic-Remedial Teacher of Reading and Language Skill. Macmillan Pub Co. 1980.
- Walter Burke Barbe , J. Abbott. Personalized Reading Instruction: New Techniques That Increase Reading Skill and Comprehension. Prentice Hall. 1975.
- Hermer , Jeremy. How to teach English. Longman , London. 1998.
- Mikulecky B. A Short Course In Teaching Reading Skills. Addison-Wesley. 1990.
- 松村幹男 『英語のリーディング』 大修館書店、昭和59年
- 葉袋洋子 『リーディングの指導』 研究社、平成7年
- サンドラ・シルバスタイン 『新しいリーディング指導』 大修館書店、平成9年

### III Bグループ 研究主題 自己表現能力の育成を図る指導の工夫

#### 1 主題設定の理由

##### (1) 主題設定の理由

コミュニケーション能力育成のためには、授業でどのような工夫を行えばよいのだろうか。コミュニケーションには必ず目的がある。それぞれの状況に応じた言葉の使い方をしなければ、メッセージは伝わらない。言葉は知識だけを教えても使えるようにはならない。学んだ内容を使う状況を作り出すことが大切である。

言語習得においては、「意味のある繰り返し」が大切である。「意味のある」とは、生徒たちがある状況の中で自ら考え判断して言語を使うということである。Pattern Practice に終始するだけでは、英語は生きていく知識にはならない。相手の意向や自分の立場などを理解した上で、考え判断し、対応するような自己表現力を伸ばす機会を増やすことが必要である。

Bグループでは、コミュニケーションをする「必然性」を教室の中に設定すれば、生徒たちは英語を通して相手のメッセージを汲み取り、それに対して自分の考えをもち、その考えを相手に伝えたいと願うようになるのではないかと考えた。英語を使ってなんとか思いを伝えようと内容を考えるようになり、伝える方法を工夫するようになる。そのとき、今まで習った知識の断片が有機的に統合され始める。そのための指導の工夫を研究主題に設定した。

##### (2) 研究のねらい

英語を通して、相手の立場を理解して自分の意見を述べることができる生徒を育成するために生徒の興味・関心のある題材を使った言語活動の実践事例を提案する。

#### 2 研究の仮説

興味・関心を促す題材を導入することにより、生徒の学習への意欲が高まる。その結果、授業の中でお互いにメッセージを発信し、理解し合う学習過程を作れば、生徒は積極的に英語で自己表現活動をするようになる。
----------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 3 研究の方法

##### (1) 研究の方法

ア 調査研究：7月上旬に生徒が興味・関心のある題材、4技能への意識、自己表現で困難を感じる項目、自己表現への興味・関心・意欲についてアンケート調査を実施した。

イ 教材作成：事前調査もとに、映画、歌、英字新聞、ディベート等の教材を作成した。

ウ 検証授業：9月から11月上旬までに、各学校ごとに3回から5回、自己表現能力を育成することを目的とした授業を実施した。

エ 事後調査：11月上旬に、自己表現への興味・関心・意欲、4技能への意識の変化、また自己表現で困難を感じる項目に変化があったかについてアンケート調査を実施した。

##### (2) 評価規準

自己表現能力の育成なので、評価規準は「表現の能力」に焦点化した。

## 4 実践事例

生徒の興味・関心を促す題材として事前のアンケートに基づき、本研究では「映画、歌、英字新聞、ディベート」の4つの題材を導入した。以下に各題材による実践事例を示す。

### (1) 映画を使った実践事例(2時間扱い)

- ア ・実施対象 第1学年 オーラルコミュニケーション
- ・使用教材 Departure Oral English (大修館) Lesson3 ・ Lesson14  
独自作成教材(映画“Stand by Me”)

#### イ 題材設定の理由

事前のアンケート調査から、生徒が興味・関心をもって自己表現できるテーマとして「友情」を取り上げることとした。また生徒が自らの意見や考えを主体的に発信するような学習過程として、「よい友だちであるために一番大切なことは何か」という設問に対して意見を交換する活動を取り入れた。

生徒の学習への意欲を高めるために、事前のアンケートで生徒の評価の高かった「映画」というメディアを使って導入を図った。「友情」というテーマを「映画」というメディアで効果的に考えさせることのできる題材として、“Stand by Me”を選択した。

#### ウ 本題材の具体的な評価規準(表現の能力)

言語活動の「対話すること」、「話すこと」、「口頭で発表すること」の中から、この事例については、「口頭で発表すること」を特に重視した。具体的な評価規準は以下の2点である。

正確な発話という観点から、「自分が友だちとして大切だと思うことが、相手と同じかどうか判断し、同意するかしないかを正確に伝えることができる」

適切な発話という観点から、「自分の意見が求められている状況に対して、賛成・反対の理由などを相手に分かりやすく示して発話できる」

#### エ 指導手順

映像で友情について考えさせることのできる場面を選んで見せる。

その後、「よい友だちであるために一番大切なことは何か」(“What is the most important thing to be a good friend?”)を問いかけ、日本語で考えさせる。

考えた日本語を和英辞書で調べたり、教師の支援を受けたりして英語に訳させる。

自分が友だちとして一番大切だと思う事について作文させ、発表させる。(教師が例文を提示する。I think ~ is the most important because...など)ペアワーク、グループワークで行うこともできる。

発表された意見に対して、賛成・反対の理由を付け加えて話す。(I agree/don't agree with him / her because I think ... )あるいは、発表のかわりに、意見を書いたワークシートを交換し、それに対して意見を言ったり書いたりすることもできる。



## オ 実践例

本実践においては2単位時間を使って検証授業を行った。時間の配当は以下の通り。

時間	授業内容	活動	表現の能力の評価
第1時	内容理解・ 会話表現	映画を見ながら、友だちとして大切なことを挙げさせ、英語に訳す。 (英語に訳す際の教師の支援として、適切な語句の選択を促す。また、自分で考えたことを適切に表現できる英語を選択しながら、理由についてもよく考えさせる。) * 指導手順中の 、 、	・自分で考えて、正確に英語に訳し、相手に伝えるための発表の準備をしている。
第2時	まとめ・内容理解  テーマについて考える	テーマについて自分の考えを英語で発表する。他の生徒が発表した意見に対して、賛成・反対の理由を付けて言う。  前時に挙げた単語を一覧にして再提示し、いろいろな意見について考える。他の生徒の意見を聞いて、もう一度考えて、友だちとして大切なベストスリーの条件をクラスで決める。 * 指導手順中の 、	・問いかけられた状況に対応して適切に自分の意見として発言できている。 ・理由などを示して説得力のある意見を述べている。

### 補足

DVD 等の機器が充実し、映画などの映像資料を使った指導の可能性が広がった。チャプターごとに区切りのあるソフトを使用することにより、頭出しの煩わしさがなく、教材として使いやすい環境になってきている。

## カ 映画を用いた実践のバリエーション

題材を選ぶ際によく考慮しなければならないのは、設定したテーマが興味をもって議論できるかどうかということと、教材として選んだ素材が作品として優れているかどうかということである。以下に参考となる作品を挙げる。

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 「アラジン」            | (3つの願いが叶うとしたら何を願うか)  |
| 「美女と野獣」           | (恋人に求める一番の条件は何か)     |
| 「バック・トゥ・ザ・フューチャー」 | (過去に戻れたらいつに戻って何をするか) |

(2) 音楽を使った実践事例 - その1 - (1時間扱い)

ア ・実施対象 第2学年 英語

・使用教材 独自作成教材 ("You've Got A Friend" (Carole King)を用いて)

イ 題材設定の理由

生徒にとって親しみやすい音楽を導入に用いると、英語による自己表現への意欲が高まり自発的に学習するようになると考えられる。

ウ 本時の具体的な評価規準(表現の能力)

友情について自分の意見を適切な語句や表現を選択し話すことができる。

エ 指導手順

歌詞の内容理解

対訳付きの英詞を配布し、曲を流しながら英単語の穴埋め問題を実施する。 10分

表現活動

条件を提示し英文を作成させる。辞書の使用も可とする。 10分

表現活動

カード<A>をペアで交換し意見を英文で付け加えさせる。

記入後<A>と<B>を共に<A>の記入者へ戻す。 10分

表現活動<発表>

カード<A>の内容を発表し、カード<B>の意見も付け加えさせる。 15分

本時のまとめ

本時で学習した内容を確認する。 5分

カード<A>・カード<B>の例

<A>

あなたにとって「良い友人」とはどんな人ですか。条件を一つ挙げて英文を作成しなさい。

A good friend is a person who \_\_\_\_\_.

Class( ) Number( ) Name( )

<B>

<A>を読んで賛成か反対か、理由もつけて英文を作成しなさい。

I (agree/disagree) with (him/her) because I think \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_.

Class( ) Number( ) Name( )

(3) 音楽を使った実践事例 - その2 - (1時間配当)

ア ・実施対象 第1学年 英語

・使用教材 Viva! English 第一学習社 Lesson 7 Music from the Heart

イ 単元のねらい

不定詞の用法を習得し、それを用いて自分の考えを書いたり、意見を述べたりできる。

ウ 本時の具体的な評価規準(表現の能力)

“I Just Called to Say I Love You”(Stevie Wonder)を聞き、その背景を探るとともに、自分自身が特定の相手に伝えたいことを考え、適切な語句や表現を選択し、話すことができる。

エ 指導手順

歌詞の内容理解

歌詞を用いて、本単元で学習する言語材料(不定詞)を理解する。

“I Just Called to Say I Love You”の概要を理解する。

15分

表現活動 <1>

条件に応じて、伝えたい内容と条件文、その理由を表現する。

英和、和英辞書を用いてもよい。

10分

表現活動 <2>

カードをシャッフルし、引いたカード<A>の内容に対しての賛否と、

その理由を表現する。英和、和英辞書を用いてもよい。

10分

表現活動 <発表>

<A>の内容を紹介し、かつ自分の賛否の意見<B>を述べる。

10分

本時のまとめ

本時で学習した内容の確認をする。

5分

カード<A>・カード<B>の例

<A>

愛する人に伝えたいこと

I just call to say \_\_\_\_\_

愛する人の最大条件と、その理由 ( )

Because \_\_\_\_\_

Class ( ) Number ( ) Name ( )

<B>

上記<A>の意見に対する賛否

I agree with him /her because I think \_\_\_\_\_

I disagree with him /her because I think \_\_\_\_\_

Class ( ) Number ( ) Name ( )

(4) 英字新聞を使った実践事例

- ア ・実施対象 第3学年 ライティング(1時間扱い)
- ・使用教材 独自作成教材(環境問題を扱った記事を使用)

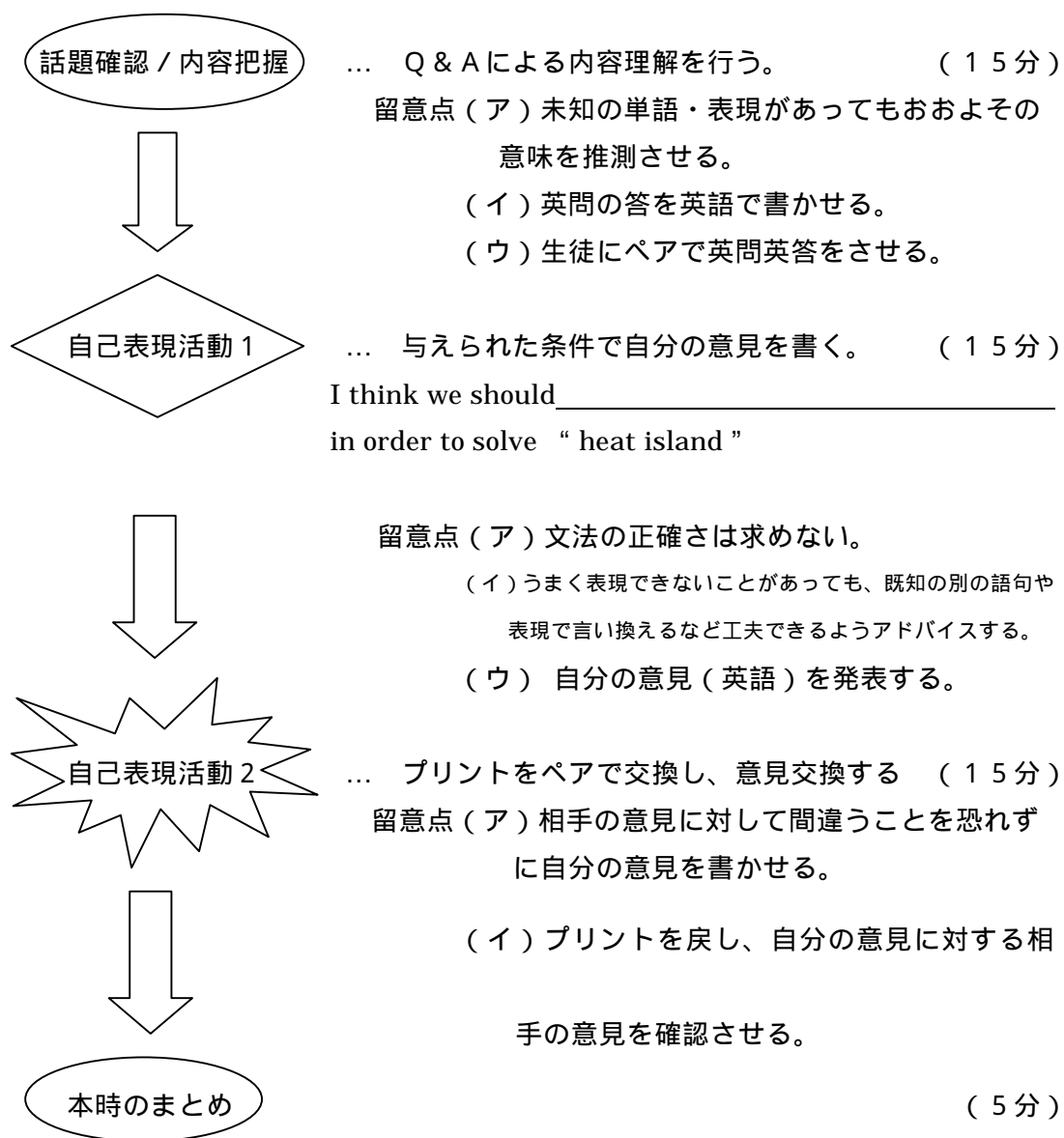
イ 題材設定の理由

英字新聞で扱うテーマの中でも、生徒の興味・関心が高いと思われる環境問題の記事を扱って、自分の意見を英語で述べる機会を与える。

ウ 本時の具体的な評価規準(表現の能力)

環境問題の内容の記事を把握したうえで、その解決に向けた自分の考えを書いたり、他の生徒の解決策について意見を書いたりして、英語で自己表現ができる。

エ 指導手順



使用教材(英字新聞)

Temperatures hit records highs as heat wave continues, over 400 hospitalize

A heat wave continued to blanket Tokyo and its vicinity July 21, with the mercury in the capital remaining above 30C overnight for the first time since 1951, when the Japan Meteorological Agency started collecting data.

In Kofu, Yamanashi Prefecture, were west of Tokyo, the mercury rose shortly after 1 p.m. to 40.4C, the second highest temperature in Japan after 40.8C recorded in Yamagata Prefecture in 1933, July 20's high was 39.9C. (略)

"The so-called heat island phenomenon is probably one of the reasons why temperatures in Tokyo alone did not markedly decrease", a meteorological agency official said, referring to the phenomenon in which urban areas are hotter than rural areas due to concentrated development and massive energy consumption.

(注) heat wave 熱波 blanket 覆う  
vicinity 近郊 meteorological agency 気象庁  
rural areas 農村部

The Japan Times 週刊 ST 7 / 3 0 号 共同通信社配信

Questions

- 1 Where did a heat wave continue ?
- 2 Why did high temperature in Kofu rise ?  
(略)
- 5 Why are urban areas hotter than rural areas ?
- 6 How do you deal with "heat island"? Please write what you can do in our daily life?

自己活動表現 1

I think we should \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ in order to solve "heat island"

自己活動表現 2

- ( 1 ) I agree with you because \_\_\_\_\_
- ( 2 ) I disagree with you because \_\_\_\_\_

(5) Debate (3-step Debate) を使った実践事例 (3 時間配当)

- ア ・実践対象 第1 学年 英語 I  
・使用教材 独自作成教材

イ 題材設定の理由

どんな物事にもメリットとデメリットがある。意見を構築しやすい身近なテーマを使い、どちらかの立場にたって、英語での意見交換の楽しさを体験する。

ウ 題材の具体的な評価規準 (表現の能力)

与えられた命題について賛成・反対の立場で理由をつけて意見を構築できる。(Step1、2、3)

自分の意見を、伝えたい内容や話題に応じて、適切な表現を選択し、相手に伝えることができる。(Step1、3)

相手の発話に応じて適切に応答し、必要に応じて反論できる。(Step1、3)

場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさを話することができる。(Step1、3)

エ 指導手順 (3 時間)

**Step1 Introduction to Debate (1 時間目)**

What's debate? : Debate の定義を紹介する。

“Dogs are better than cats.” : JET (賛成側) と ALT (反対側) が 2 回意見交換して、生徒は双方の主張を聞きとる。理由のつけ方を学ぶ。

意見交換のコツ 7 つを紹介

- 1 意見には理由をつける。実例を使うとさらにわかりやすい。
- 2 相手の言ったことを繰り返し (要約し) それに同意するか否かを述べてから自分の意見を述べる。
- 3 やさしい英語を使う。辞書で調べた難しい単語は伝わらないことが多い。
- 4 大きな声でゆっくりはっきりしゃべる。
- 5 相手のいったことがわからなかったら、Excuse me? Pardon? What did you mean? ...
- 6 部分的に聞き取れなければ、When? Where? Who? How many? などで聞く。
- 7 すぐに英語がでてこなければ、Let's see... Well,. などで時間をつなぐ。

A simple pair debate : 隣同士でペアになり、じゃんけんで勝ったほうが賛成側、負けた方が反対側になる。まず 3 分間で双方ができるだけたくさん理由を考える。次に全員が教室内を移動し、3 分間意見交換をする。(会話形式は以下の通り)

A: **I think** (bicycles are better than cars) **because** bicycles are earth-friendly.

B: **You said** (bicycles are better than cars because bicycles are good for environment), **but I think** (cars are better than bicycles) **because** (cars can carry more things than bicycles).

**Step 2 Preparation for the debate contest (2 時間目)**

How do we rebut? : 反論の仕方を例を使って教える。

Grouping & Preparation for the debate contest : 1 グループ 8 人、さらにグループ内で 4 人ずつ賛成・反対に分かれる。



## 5 生徒対象の意識調査

### (1) 調査結果

調査は6校(355人)の生徒を対象に、7月の授業実践の開始前と11月の検証授業終了後の2回行った。自己表現活動に対する意識を4段階で回答させた。質問項目と結果を次頁に示す。

### (2) 考察

ア 実践前アンケートでは、英語を勉強するための題材として、生徒たちの興味のある項目をいくつか選ぶことから始めた。複数回答ということもあるが、177人という多くの生徒たちが「音楽」に強い関心をもっていることが分かった。続いて「映画」と「スポーツ」にも多くの興味が集まった。また、学校生活を通しての「友情」についてや、社会全般を通しての「環境」問題など、難しいテーマに意欲を示した生徒たちも少なからずいた。これらの結果を生かした教材作りに取り組むことにした。

イ 実践前と実践後のアンケートに共通する項目は、右ページのグラフ から までである。グラフ と の言語活動への興味の質問項目を見ると、今回の研究を通して「とても興味がある」「まあまあ興味がある」が4割から7割にまで増えた。同じく、グラフ と の自己表現への興味の質問項目でも、「とても興味がある」「まあまあ興味がある」が3割から7割に増えており、生徒の関心・意欲が高まったことが分かる。

ウ グラフ から までの4つの言語活動については、大きな変化は見られなかった。

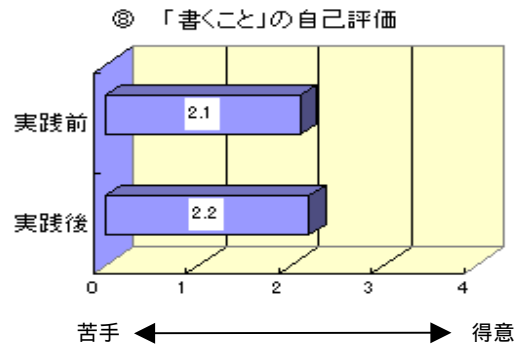
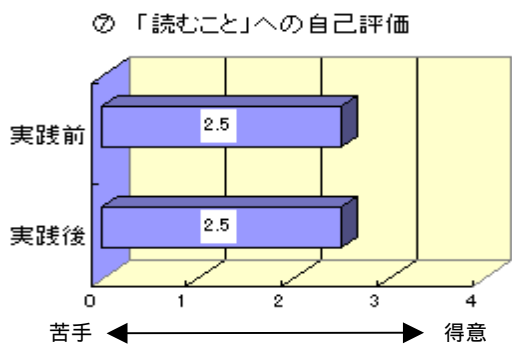
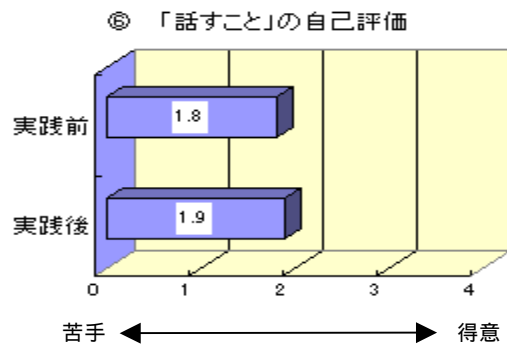
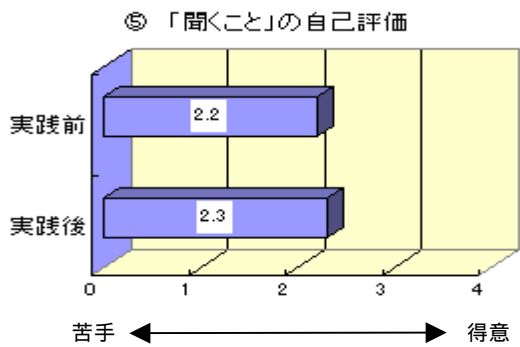
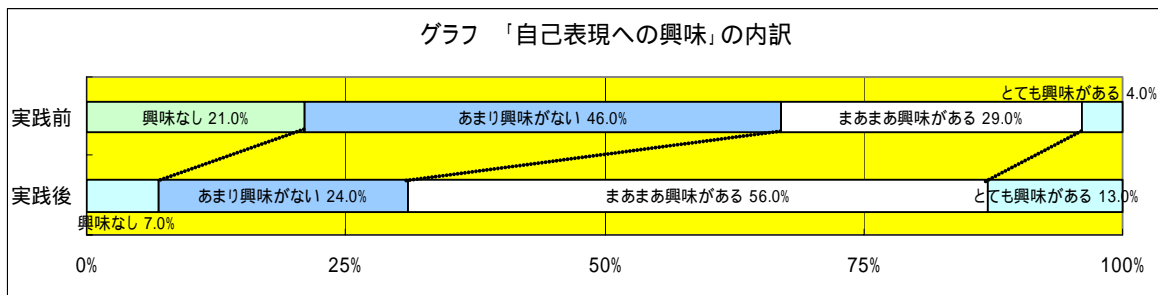
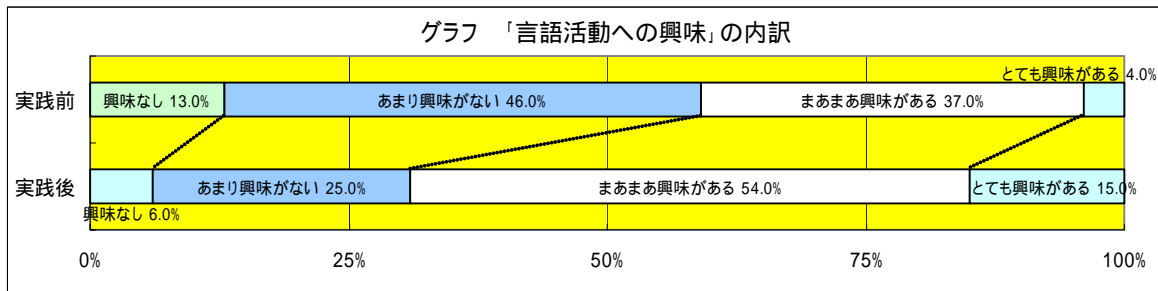
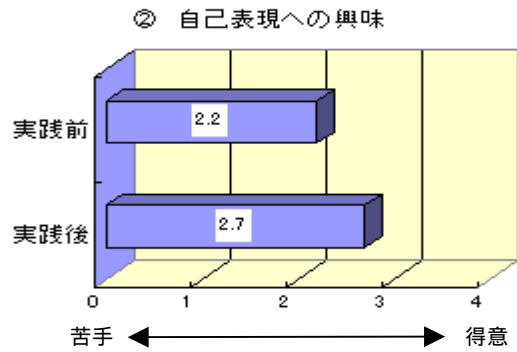
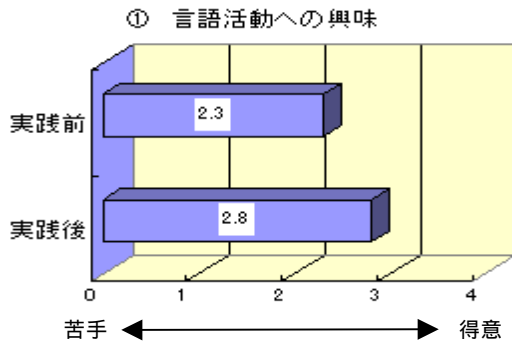
エ 自己表現活動に困難を感じていることを挙げた生徒もいた。これらの問題に真しに取り組んでいくことも今後の課題の一つである。以下に生徒たちの声を載せる。

- ・相手の話す英語を簡単にまとめたり復唱したりすることができない。
- ・日本語でよく使う単語の中で、英語になるとよく分からないものがある。
- ・言いたいことをどの時制や構文で言ったらいいのか分からない。
- ・内容や意味は分かるが、単語が浮かばない。

オ 「英語で自分の考えや思いを話したり書いたりしようとする時に、困難に感じることは何か」という質問項目を設定し、生徒たちの困難さの原因を探ってみた。「自分の考えを順序立てて(論理的に)話すのが苦手」と感じている生徒の数は実践前・後で大きな変化は見られなかったが、「自分の考えを順序立てて(論理的に)書くのが苦手」と感じている生徒の割合が減ったことは、成果の一つといえる。



# 生徒対象の意識調査の結果



## 6 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ア 自らの考えを伝えることや相手の意見に対する自分の意見を伝えることを重視して、文法的な間違いや細かい語いにとらわれないよう指導することによって、苦手意識をもたずに自己表現活動に取り組ませることができた。
- イ 意見交換の場において英語を話す必然性を設定することにより、自らの意見を大切にすると同時に相手の意見を聞く姿勢にも真剣さが増し、コミュニケーションの大切さを自覚させることができた。また、生徒たちがお互いへの理解を深めることができた。
- ウ 興味・関心を引く題材・教材の特性を生かしながら英語での自己表現が求められる活動をすることで、英語の学習への意欲が高められた。
- エ 英語で自分の意見を述べ、他者と意見交換することにより、生徒に自分の改善すべき点を認識させることができた。
- オ 自分の考えを順序立てて書くことに以前よりも苦手意識をもたない生徒が増えた。さらに、英作文で自分の意見を加えられたことで、自己表現することへの自信を深めた生徒が多く見られた。

### (2) 課題

- ア 生徒全員の興味・関心に合致する題材はない。意欲に差が出ることがないように、興味・関心に応じて生徒が主体的に題材を選べるような方法を工夫する必要がある。
- イ 伝えたい内容を適宜表現していくことが困難な生徒に対して、さらに具体的な個別指導の方法を考える必要がある。
- ウ 自分の意見を述べるだけでなく、さらに議論が深まるような方法を考える必要がある。
- エ 自己表現能力を広げるために、さらに語い力をつける必要がある。

## 7 参考文献

- Daley, P. & Dahlie, M. 50 Debate Prompts for Kids. New York: Scholastic Inc. 2001
- Ur, P. Discussions that work, Cambridge: Cambridge University Press. 2001
- 中島 洋一 『英語のディベート30の技』明治図書、平成12年
- 『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(高等学校)』国立教育政策研究所教育課程研究センター、平成16年
- 藤井 昌子、Steven Ashton 『続・言語活動成功事例集』開隆堂、平成13年

平成16年度 教育研究員名簿（外国語）

	学 校 名	氏 名
A グ ル ー プ	都 立 一 橋 高 等 学 校	鈴 木 太 朗
	都 立 目 黒 高 等 学 校	前 田 由 美 子
	都 立 足 立 高 等 学 校	西 野 誠 一
	都 立 八 王 子 北 高 等 学 校	石 橋 奈 保 美
	都 立 拝 島 高 等 学 校	謡 口 知 子
	都 立 東 大 和 南 高 等 学 校	佐 々 木 昭 一
B グ ル ー プ	都 立 大 泉 高 等 学 校	山 本 美 園
	都 立 小 岩 高 等 学 校	新 保 研 一
	都 立 墨 田 工 業 高 等 学 校	関 口 幸 恵
	都 立 忠 生 高 等 学 校	中 村 勝 徳
	都 立 田 無 工 業 高 等 学 校	酒 井 孝 元
	都 立 三 宅 高 等 学 校	高 橋 等

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 宇 田 剛

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成16年度 第21号  
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社